

1. 開会 進行：藤原生涯学習課係長
2. あいさつ 大北教育長
3. 委嘱状交付 机上交付
4. 委員自己紹介 各委員
5. 事務局自己紹介 各事務局
6. 委員長・副委員長の選出について
  - ・池田委員を委員長、岸本委員を副委員長に選出。
7. 報告  
三木市教育の基本方針について } 河端生涯学習課長より説明（2分間）
8. 議事  
令和4年度社会教育施策の推進について } 各課長、館長より説明（30分間）

【質疑応答】

(池田委員長)

- ・では、「令和4年度社会教育施策の推進について」、ご質問、ご意見がある方は、発言をお願いする。

(中西委員)

- ・インターネットが子どもたちに悪影響を及ぼしている問題事案について、監視を依頼している見守り隊の監視員は、どのように監視しているのか。

(橋本教育センター所長)

- ・「ネット見守り隊」については、おもにSNSに投稿されている写真などについて、専門の業者に委託して問題になる投稿がないか監視している。それを月1回報告してもらい、学校内の写真等の投稿で個人が特定されるなどの問題がある場合は、学校、教育委員会と連携して指導することを主に実施している。この事業が始まってから約4年経過している。当初、困った事案があったが、この2年は問題となる事案が無く、子どもたちも良く考えて使っていると感じている。ただし、子どもたちが、楽しいがために行き過ぎたことにならないように、今後も監視活動を続けていく。

(國井委員)

- ・人の目の垣根隊について、9月6日の意見交換会の案内をいただいている。前回のこの委員会でも述べたが、現在11名の交通指導員が各学校の校区ごとにおられ、毎朝、子どもたちの登校の見守りをされており、各校区の状況をよく知っておられる。交通指導員の方に意見交換会に参加していただくことはできないか、検討いただきたい。

(橋本教育センター所長)

- ・検討する。

(國井委員)

- ・別所ふるさと交流館について、その活動が広報に掲載されていない。また、ふるさと交流館の看板がわかりづらくなっている。別所ふるさと交流館を運営する団体の代表からは、会員が少なくなり、運営しにくい状況を聞いている。別所にはまちづくり協議会など、各種団体があるので、そのような団体と連携してふるさと交流館を活気づけたいと思っている。テニスコートも草が生えて利用が少ないようである。その一部で、グランウンドゴルフができるようにして、老人クラブの方に使ってもらうができないかとも考えている。以上のようなことを検討いただきたい。

(河端生涯学習課長)

- ・看板関係は再点検する。テニスコートについては、草ひきをしているが、すぐに草が生えてくる。また、子どもの利用団体があることから除草剤が使えない状況でもある。利用があれば草が生えなくなるので、地域の方と相談して対応していきたい。

(藤井委員)

- ・みなぎの書道展については、その開催に関する事務を吉川高校書道部にさせていただいている。市内の高等学校の統合後においても、みなぎの書道展を存続してほしいという高校からの要望があるが、吉川高校が統合で無くなれば、存続が困難と思われる。市においても書道展が存続できるように考えていただきたい。

(金井文化スポーツ課長)

- ・吉川高校書道部のみなさんには、作品の整理から審査の補助までお手伝いいただいている。高校の統合があっても、どのような形になるかわからないが、書道部のみなさんにはご協力をいただき継続していきたい。

(本岡教育総務部長)

- ・みなぎの書道展の実績と今後のことを考え、書道部へは協力を依頼するが、協力が得られない場合であっても市として継続することを考えていきたい。

(西田委員)

- ・私は青山に住んでいるが、住民の声として、まちには、大学があり、小学校、中学校、高校、幼稚園があり、すばらしいまちであるという声が多くある。ところが、もし、三木北高校が統合で他の地域に移った場合、青山が寂しい環境になる。特に高齢者にとっても寂しく感じる。通学でバスや神戸電鉄の利用も多いはずである。

(本岡教育総務部長)

- ・3校が1校となるが、どの場所に残るかは今後のことになる。三木北高校が移ればその土地が

空いてしまうが、他の高校においても同じことが言える。空いた土地については、三木市としても地元の意向も聞きながら、単に宅地開発ではなく良い方法で活用ができるように、まちづくり協議会と協議していきたいと考えている。

(西田委員)

- ・人の目の垣根隊について、地域の子どもの見守りは、老人会の方がどの地域においてもされている。私の地域でも高齢化が進んでおり、この2～3年の間に6名ぐらいの方が、立番が困難となってきている。現在、青山全体では、朝において6～7名の方が立番されている。PTAにお願いすることが良いと思うが、保護者の方はお勤めの方が多く難しいと思うので、児童の登下校の安全については、地域のいろいろな団体などにより、地域全体で考える必要がある。

(橋本教育センター所長)

- ・3年ぶりに意見交換会を開催するので、その時にもご参加いただきたい。老人会の方には、これまでに多くのお世話をいただいていたが、続けたいけれども、残念ではあるが、体調のため、続けることができないという声も多く聞いている。これまでされてきた方の思いを受け継ぎ、これからも子どもたちの安全を守るため、なんとか活動を継続していきたいので、お知恵をいただきたい。

(中西委員)

- ・PTAで知り合ったお母さん方との話で、これから若い人が社会を担う時代の中、なぜ勉強するのかを教える教育、例えば、人が始めた戦争は必ず人の手で治めることができるという教育、他国が困難な状況の時、日本だけがしあわせになってよいのか、不幸の上に築く幸福は間違っている、という教育を大事にしなければならないという話を聞いた。社会に貢献するためには、力をつけなければならないが、そのために、小学校で基本的な算数などを学習することが将来に役立つということを伝え、中学校では、トライやるウィークがあるが、小学校であれば、現場で働く人の声を直接聞く、例えば、調理士であれば化学反応で料理ができるので、理科が大事であるということ、介護の仕事であれば、車椅子など角度によって介護の仕方が変わるので、算数が役に立つということなど、現場で働く人の声を伝える場がほしいという話など、お母さん方から、何のために勉強するのか、目的を与える教育を発信してほしいという声があった。

(橋本教育センター所長)

- ・これまでも時代にあった学校教育に取り組んできたところであるが、今年から、新たな取組を三木市として考えている。これからの子どもたちの将来に役立つ教育、どのようなことを身につければよいのかなどについて、教育委員会で話し合いを進めている。これからその内容について、学校だけでなく、保護者の方々にも伝えていく。三木市の教育がどのように進んでいくのかを4年～5年かけて少しずつ浸透させていきたい。保護者のご意見もいただきながら、子どもたちのよりよい将来につながるようにしたい。近いうちに、パンフレットを発行する予定があるので、その時にご意見をいただきたい。

(河端生涯学習課長)

- ・ご指摘のあったテーマについては、生涯学習を進めている公民館においても取り組めないか、課題として考えたい。地域の子どもは地域が育てようという市長の思いもあるので、学校だけ

でなく地域で育てる仕組みも考えていかななくてはいけないと考えている。

(小林委員)

- ・三木市においては、少子化と高齢化により、様々なことに弊害がでてきている。学校の統合についても少子化が影響している。区長をしているので、敬老会の名簿をもらったが、75歳以上の方が非常に多い。そういう状況の中で、生涯学習については、現在の計画を行動に移していただき、住みよいまちづくりの柱としていただきたい。

(河端生涯学習課長)

- ・少子高齢化の課題は三木市だけでなく、様々ところで課題となっている。最近では、人生100年時代という言葉が聞かれるようになった。高齢者大学は60歳以上で入学できるが、60歳代は働いている人が多く、地域に戻る年代は70歳ぐらいの方が多くなっている。しかしながら、人生100年時代となると、70歳でもまだまだ長い人生がある。高齢者大学においては、内容を充実させ、いろいろなアクションを起こしていかなければならないと考えている。いろいろなご意見があれば、教えていただきたい。

(小紫委員)

- ・文化スポーツ課にお願いしたいことがある。中学校の部活動が地域に移行されることになるが、人材を探すことが、今後、難しいと考えられる。文化スポーツ課は、文化活動の方、スポーツ活動の方につながりがあるので、本格的に地域に移行される前に人材バンクのようなものをつくっていただきたい。また、公的な資格が必要であると文科省が出していたと思う。今後、その方々の資格をとるための費用の助成をお願いしたい。

(金井文化スポーツ課長)

- ・部活動の地域移行については、検討委員会の立ち上げに向けて進めている。学校の部活動であるが、指導者については、社会体育関係の、例えばスポーツクラブ21や、スポーツ協会、スポーツ推進委員さんなど、また、地域でスポーツ活動をされている方が関わっていくことが必要でないかと考えている。検討委員会にも社会体育関係の方にも参画いただきながら、地域移行に向けて進めていく計画である。公的な資格が必要であることについても、費用等が伴うことになるので、国、県からの指示に基づき適切に進めていきたい。

(兼貞委員)

- ・昨年の秋、高齢者大学へ行く途中、星陽中学校の前を車で通りかかり、横断歩道で停まった時、一人の男の子が帽子をとり、お辞儀をして、横断歩道をわたり終わると、また帽子をとりお辞儀をして走っていった。それを見た時、すばらしいと思い、翌日、星陽中学校の校長に電話をした。校長に、昨日、嬉しいことがあったと、そのことを伝えると、校長から、それは、生徒からの意見で、自分たちが道を渡るために、車に停まってもらうことがとてもありがたいので、お辞儀をしようということを生徒から発案したと聞き、とても感動した。そのような良い気持ちを持って大人になろうとしている子どもたちにとって、お手本となる私たち大人がそういう心を忘れてしまっただめであると思う。時々、市役所の前の横断歩道で、多くの職員が渡っているのを見かけるが、次々に渡り、車が渋滞している。急いでいるのはわかるが、そこで、頭を下げるとか、遠慮する様子もなく、堂々と渡り、去っていく。それを思うと、星陽中学校の子どもたちはすばらしい。その子たちのお手本となれるように、特に、公の場で仕事をして

いる方は気を付けていただきたい。

(本岡教育総務部長)

- ・他の学校の子どもたちも、お辞儀をしてくれる。自転車に乗っている子でも、わざわざ降りてお辞儀をしてくれる子がいる。市役所の職員、特に教育委員会の職員は教育に携わる者でもあるので、教育委員会の者だけでもそのような気持ちで横断歩道を渡るように私から通知を出したい。

(池田委員長)

- ・いろいろとご意見を出していただき感謝する。以上で議事については終了する。それでは、進行を事務局にもどす。

#### 9. その他

東・北播磨地区、県・近畿・全国社会教育委員協議会関係予定 } 藤原生涯学習課係長より説明  
(2分間)

#### 10. 閉会

あいさつ 岸本副委員長

～午前 11 時 30 分終了～

記録者 緑が丘町公民館 金子高士